

# ゆめ工房

Vol. 27

## パフォーマンス評価

◇ 教育評価というものには、そのやり方によっていくつかに分類することができます。

\* 成績評価の尺度による分類 … 相対評価・絶対評価（到達度評価）・個人内評価

\* 評点のつけ方による分類 …… n段階評価・観点別評価

\* 評価の機能による分類 …… 診断的評価・形成的評価・総括的評価

(ベンジャミン・ブルームによる分類)

それぞれの説明については、ここでは触れませんが、これらの評価のほとんどは、「見える学力」を視野に入れて考えられたものだということです。いわゆる市販のテストというのは、「総括的評価」の仲間に入るわけですが、そのテストだけで「関心・意欲」や「思考・判断」のような「見えにくい学力」を評価するのは、かなり難しいということが言えるわけです。

◇ 新しい教育課程が示されてから、急に注目を浴びるようになった評価の考えがあります。「パフォーマンス評価」といわれるものです。これは、文部科学省の中央教育審議会教育課程部会から出された「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)2011. 3. 24」の中で、

思考力・判断力・表現力等を評価するに当たって、「パフォーマンス評価」に取り組んでいる例も見られる。

と述べられたところから注目を浴びるようになったものです。

◇ パフォーマンス評価、たぶん聞き慣れない言葉だと思います。これは、思考力・判断力・表現力などの活用力だけでなく、関心・意欲・態度という「見えにくい学力」を評価するために力を発揮するものです。自分も取り組んでみて、その効果を確信していますので、紹介したいと思います。



### 【パフォーマンス評価とは】

「パフォーマンス課題」によって学力をパフォーマンス（ふるまい）へと可視化し、学力を解釈する評価法である。

→ その仕組みは、フィギュアスケートの評価方法と似ているそうです。フィギュアスケートでは、専門家が実際の演技の過程を見て、一定の基準に沿って採点します。同様にパフォーマンス評価も、「パフォーマンス課題」に取り組ませることで、子どもの学力を「見える」ようにし、「ルーブリック」という評価基準を使って評価するものなのです。パフォーマンス課題は、評価したいと思う学力ができるだけ直接的に表れるものにする必要があります。

京大教授 松下氏の著書(右上写真)から

ちょっと分かりにくいですね。つまり、あらかじめ評価したいと思っていることを、課題として子どもたちに示します。この課題を「パフォーマンス課題」といいます。その課題に取り組んでいる様子を観察しながら、事前に作成した「ルーブリック」に基づいて評価しようというものです。「ルーブリック」というのは、横軸を「観点」、縦軸を「レベル」として、観点ごとにレベルが一目でわかる評価基準表です。↓

評価の観点	評価規準の考え方	評価規準	S	A	B
ア、コミュニケーションへの関心・意欲・態度	①言語活動への取組	外国人に日本文化をわかりやすく説明しようとしている。	資料に図や写真以外の物を使ったり、説明のしかたにさらに工夫をこらして分かりやすくしている。	資料(図や写真)を使い、さらに外国人を意識した説明のしかた(日本と外国の比較など)をしている。	資料(図や写真)を使って日本語で説明している。
	②コミュニケーションの継続				
イ、表現の能力	①正確さ	文法的に正しい英文を書くことができる。	ネイティブのような豊富な表現を使いながら正しい英文を書いている。	書いた英文清書に文法的に間違った文がない。	書いた英文清書に間違いがあるが、の間違いや簡潔法ミスであり、通じる。
	②適切さ				

このパフォーマンス評価は、従来のテストでは見えにくい「思考力」「表現力」などを具体的な表れとして見られるよさがあるものの、実践するのに困難な問題がたくさんあると言われていています。例えば、「多くの時間と労力を要する」「課題数が制限される」「ルーブリック作りが難しい」「言語による場面設定にはいくつかの問題がある」など(前掲書)。特に、「多くの時間と労力を要する」というのは現場にとって、一番の問題ですね。ただでさえ、現場の教師には時間がない、忙しいと報告されているのに、それに加えて時間と労力がかかるとなると、まず取り組んでみようと思う人は少なくなってしまいます。

◇そこで、私の提案は「パフォーマンス評価的な評価」と考えてみませんか? というものです。具体的に言うと、次のように考えるわけです。

- パフォーマンス課題を、日々の授業の中の発表や態度も含み込んで日常化する。つまり、普通の授業をしながら、パフォーマンス評価の視点で見ていく。
- ルーブリックは、教師の経験則からつくりあげる。

これだと、手間をかけずに取り組むことができると考えます。

大事なことは、「今日の授業で評価したいことは何か」を意識することです。そして、「欲張らないこと」です。

これらのことを頭に入れて、ぜひとも取り組んでみてください。